

## 所沢市地域公共交通計画の策定について

### 公共交通に関する現況整理 及び 課題整理 報告

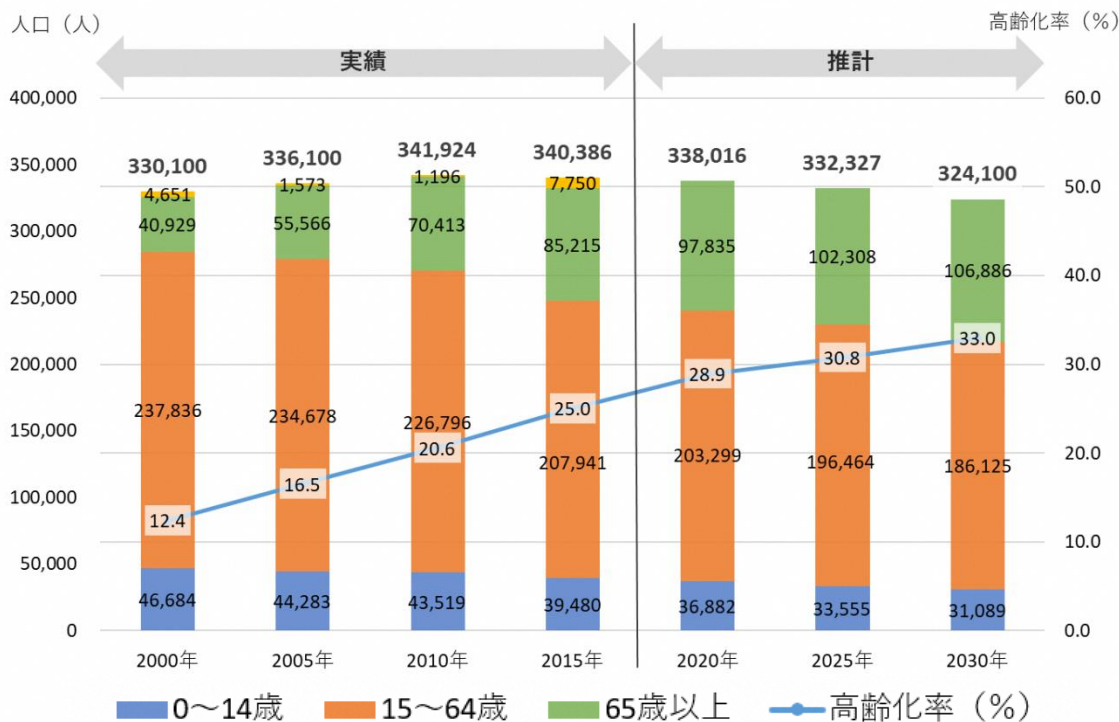
1. 人口推移・推計
2. 公共交通網図
3. 人口カバー率
4. 移動実態
5. 現況把握から見える課題
6. 今後のスケジュール

令和3年度第3回所沢市地域公共交通協議会  
令和3年11月24日（水）

# 1 人口推移・推計

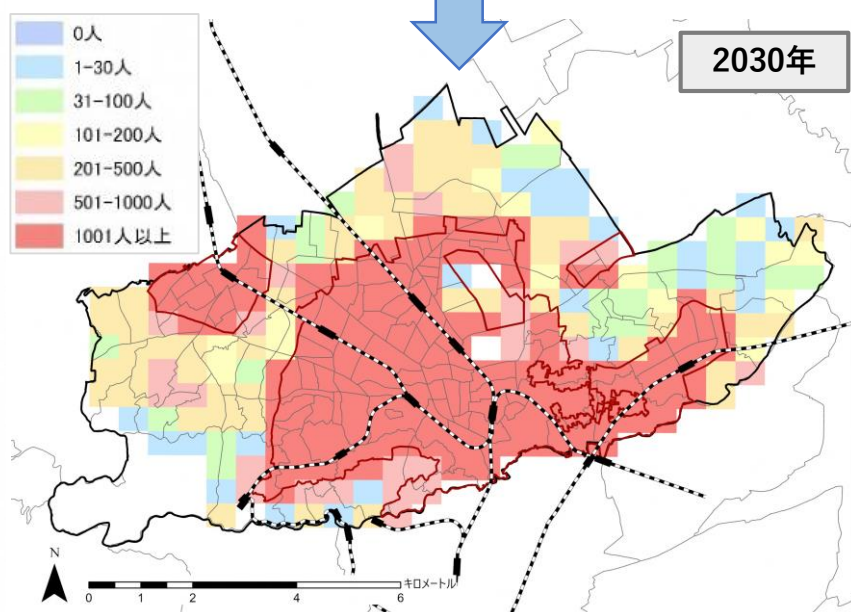
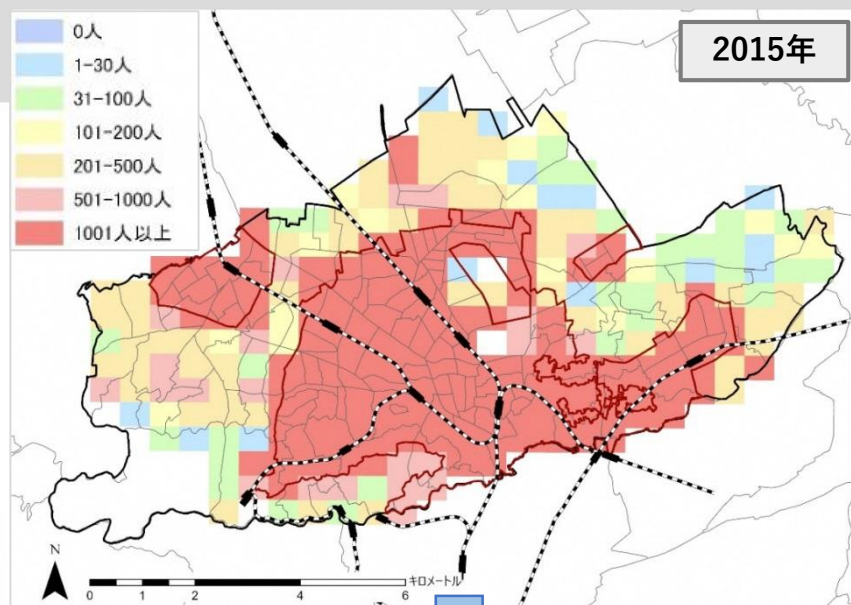
- 今後も高齢化が進み、人口減少が徐々に進行すると予測される。
- 将来にわたり、市街化区域では、人口密度が維持される。

⇒ 将来の高齢化に伴う公共交通の需要を見据え、市街地を中心とした多様な交通手段の維持・運行等が求められる。



資料:国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

年齢三区分別の人口および高齢化率の推移・将来推計

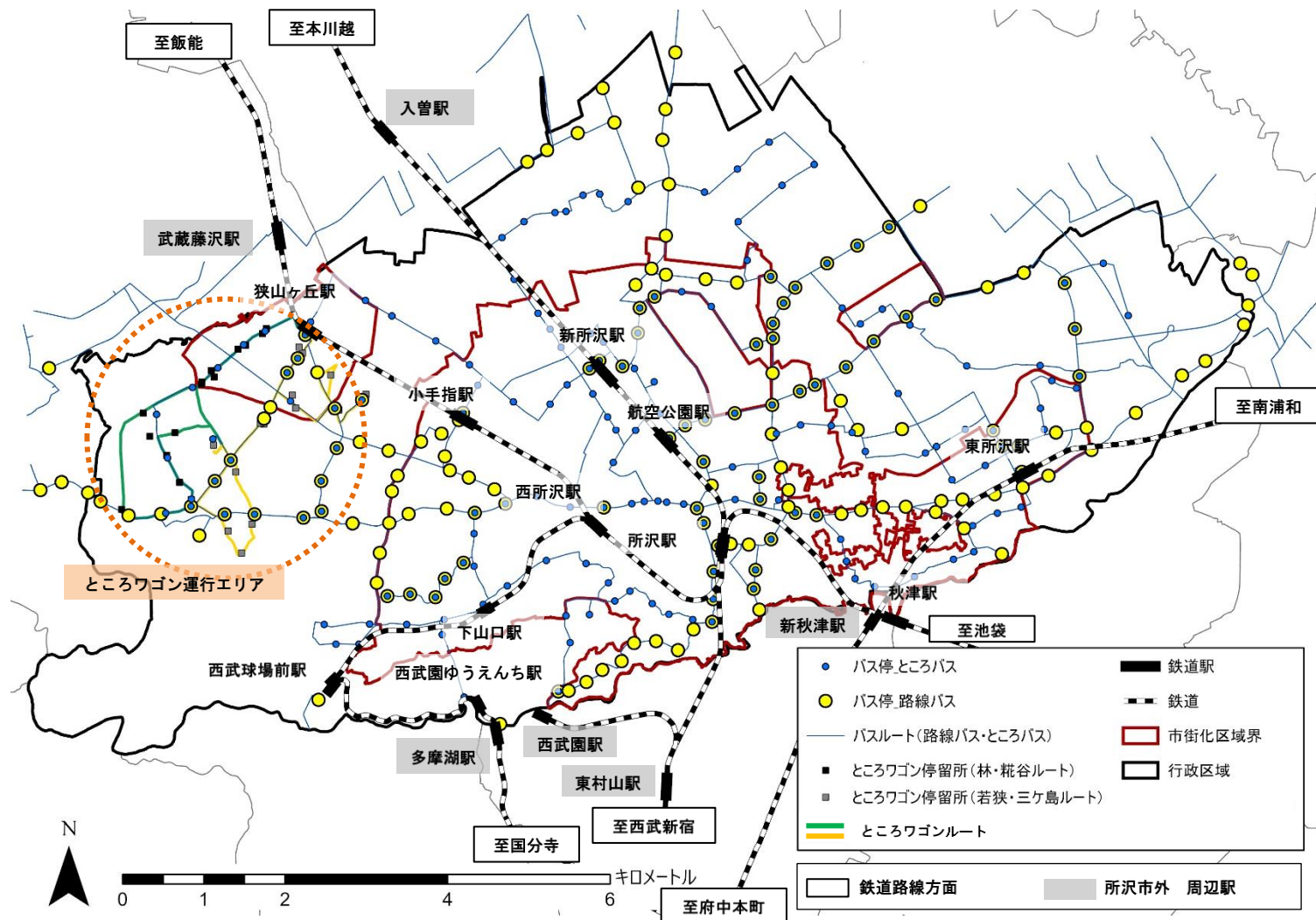


資料:国勢調査、国土数値情報

所沢市の将来推計人口分布状況 (500mメッシュ)

## 2 公共交通網図

- ・ 鉄道は西武鉄道4路線、JR東日本1路線が通っており、合わせて11駅がある。
- ・ 鉄道駅を拠点に、路線バス、ところバス、ところワゴンが運行している。



公共交通網 (所沢市内と周辺駅)

資料:所沢市



# 3 人口カバー率

- 公共交通カバー圏域に含まれている全人口及び高齢者人口は全体の約9割である。
- 1日あたりの運行本数が30本以上の公共交通カバー圏域の人口・高齢者人口は全体の約7割が該当する。
- 市全域に公共交通は運行しているが、運行本数が少なく利便性が高くない地域もある。

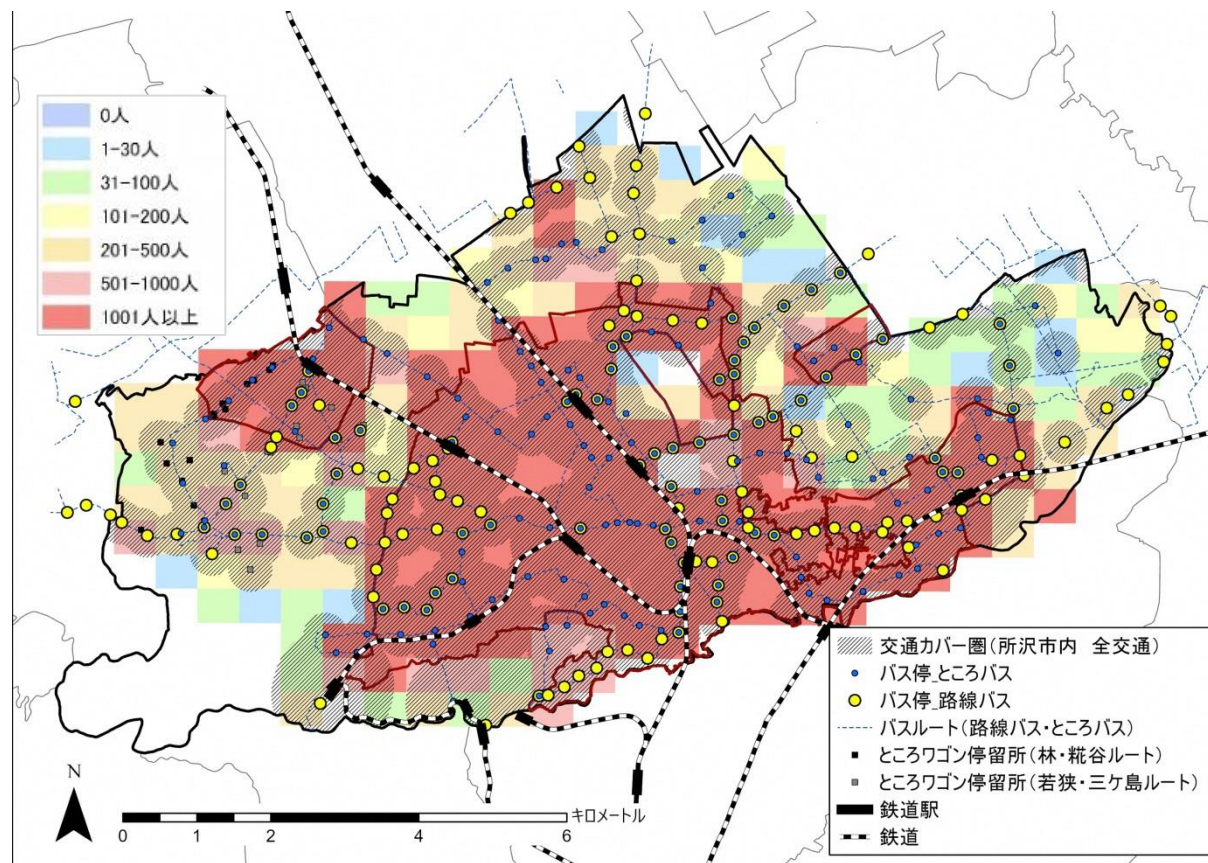
⇒公共交通の運行状況により、公共交通空白地域・不便地域が増加する懸念があるため、移動環境の整備を図る必要がある。

## 公共交通カバー圏域

	2015年	2030年
公共交通カバー圏域 面積(km <sup>2</sup> )	68.1	
公共交通カバー圏域 人口割合 (%)	90.9	91.2
公共交通カバー圏域 高齢者人口割合 (%)	89.6	90.6

公共交通カバー圏域 (ところバス・ところワゴン及び日30本未満の路線バスを除く)

	2015年	2030年
公共交通カバー圏域 面積(km <sup>2</sup> )	37.0	
公共交通カバー圏域 人口割合 (%)	74.9	75.2
公共交通カバー圏域 高齢者人口割合 (%)	72.2	74.0



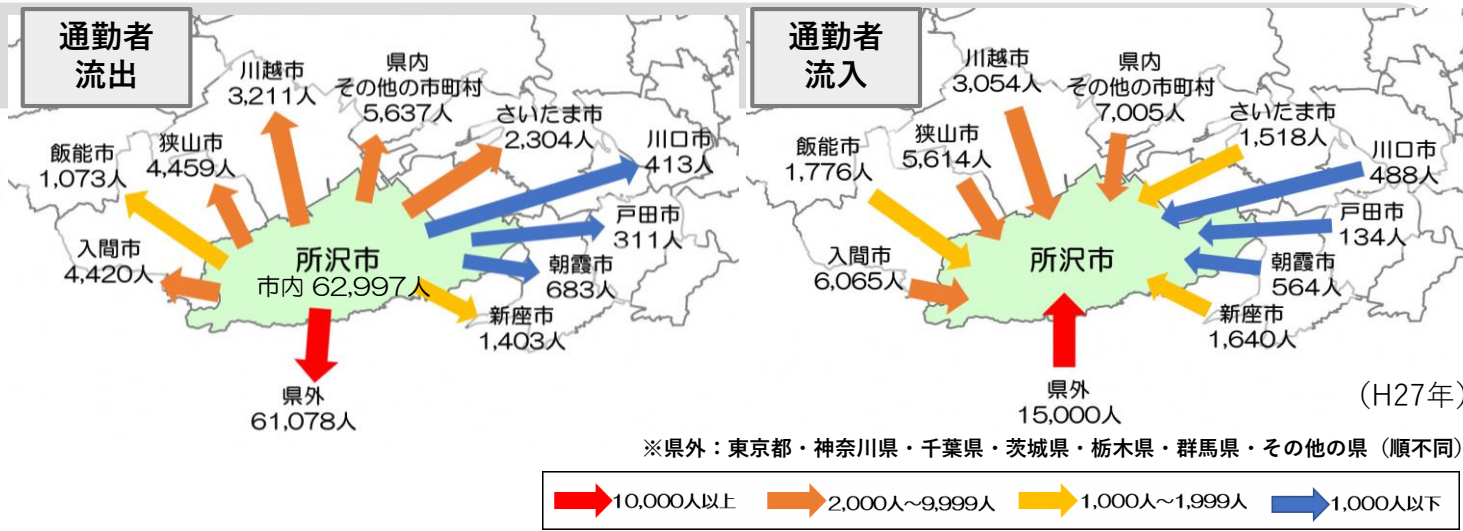
資料:国土数値情報、所沢市

公共交通の2015年人口 (500mメッシュ) に対するカバー状況図

# 4 移動実態

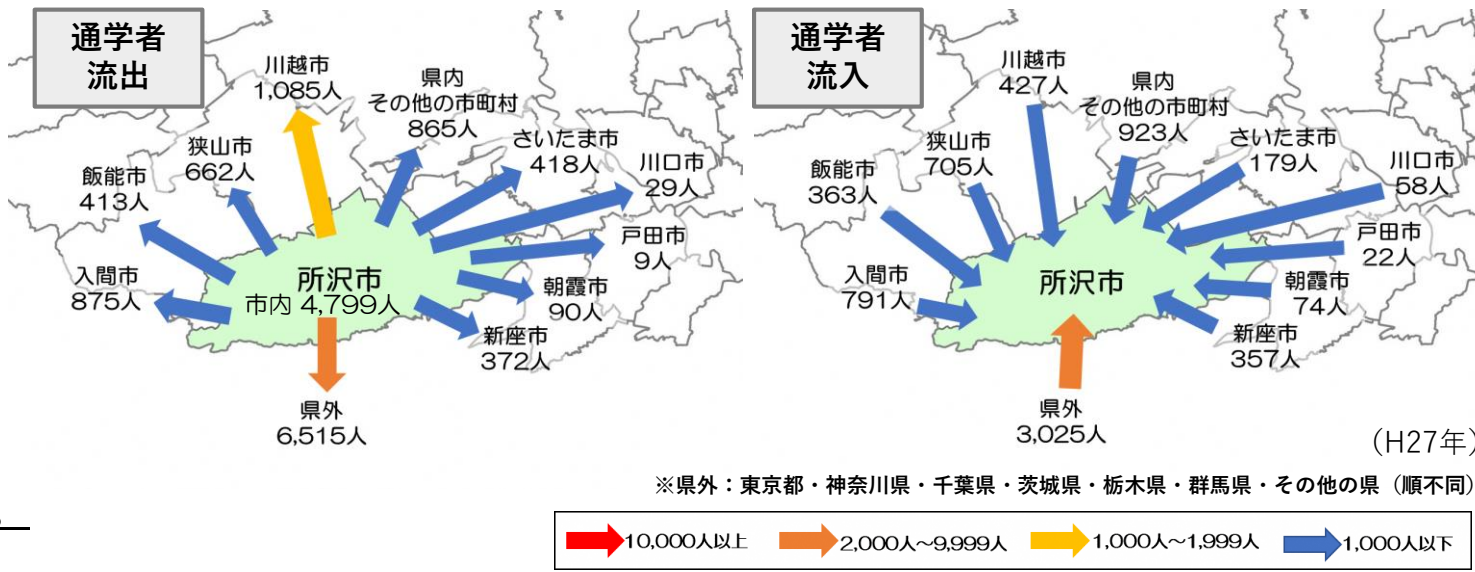
## 通勤・通学者の流出入

- 通勤・通学者の流動は県外への流出が多くみられる。
  - 県外への通勤者の流出は、約6万人で、市内在住で市内に勤務する人数と同規模である。特に東京都への流出は県外全体の9割以上と最も多い。
  - 県内においては、入間市、狭山市、川越市など近隣市をはじめとした市町村との流動がみられる。
- ⇒通勤・通学時間帯の公共交通の利便性の維持・向上が求められる。



資料:令和2年版所沢市統計書

### 15歳以上の通勤者の流出・流入状況 上位5カ所



資料:令和2年版所沢市統計書

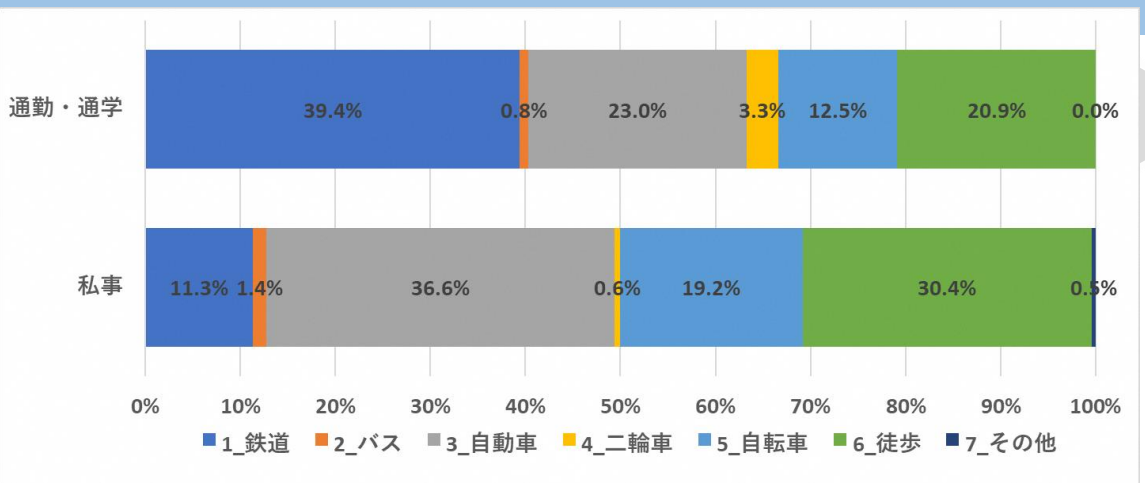
### 15歳以上の通学者の流出・流入状況 上位5カ所



# 4 移動実態

## 代表交通分担率

- 通勤・通学においては、鉄道の分担率が約4割であり、代表的な交通手段となっている。
- 私事においては、自動車の分担率が約3～4割であり、代表的な交通手段となっている。
- バスの分担率は目的によらず小さい。

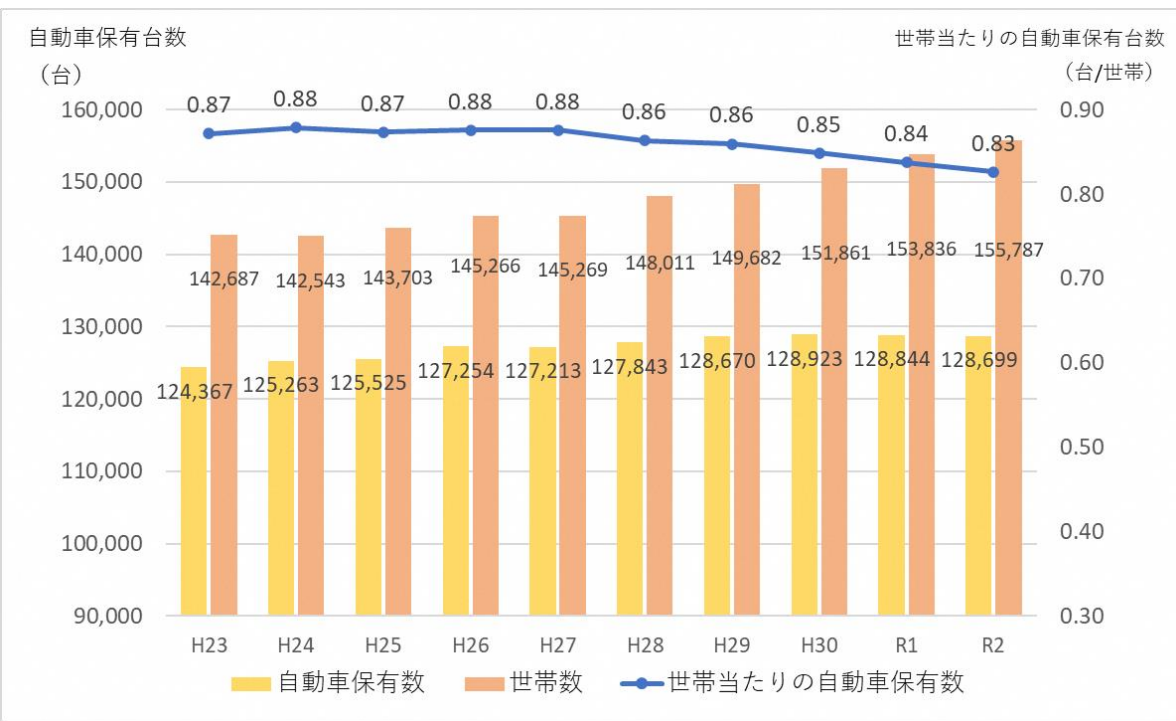


資料:H30東京都市圏パーソントリップ調査

代表交通分担率

## 自動車保有率

- 所沢市の自動車保有台数は、緩やかな増加傾向であったが、直近では横ばいである。
- 世帯当たりの保有台数は近年約0.85台前後を推移しており緩やかに減少している。



資料:令和2年版所沢市統計書

世帯当たりの自動車保有率の推移

⇒ 公共交通の利便性を高め、自家用車を利用できない市民もスムーズに移動できる環境を提供する必要がある。

⇒ 自家用車から、環境に優しい公共交通への転換を促す必要がある。

# 4 移動実態

## 鉄道：利用者数の推移

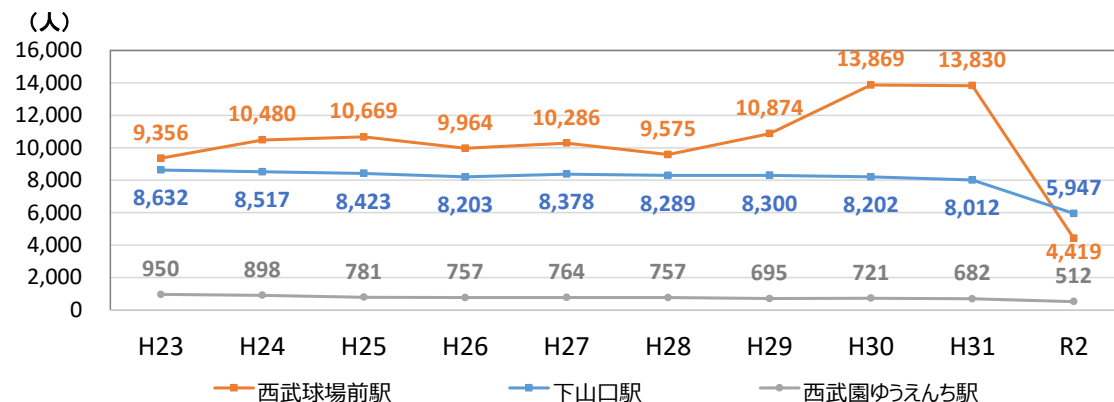
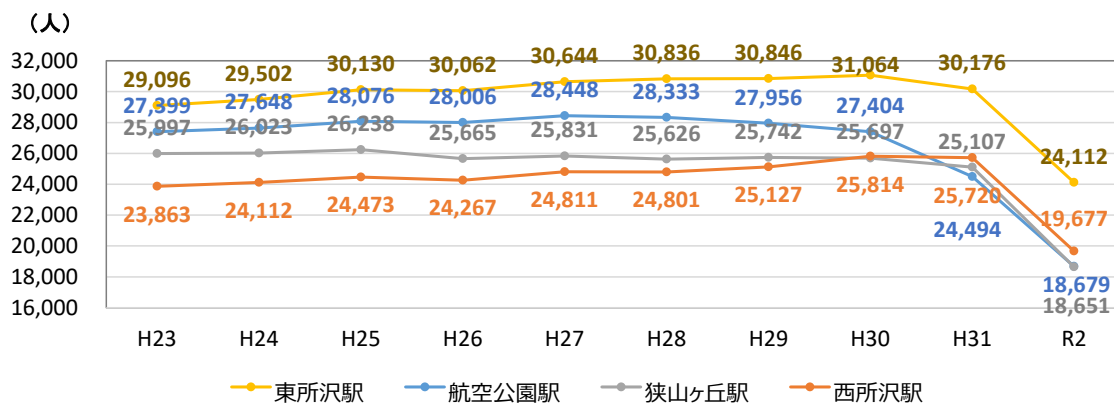
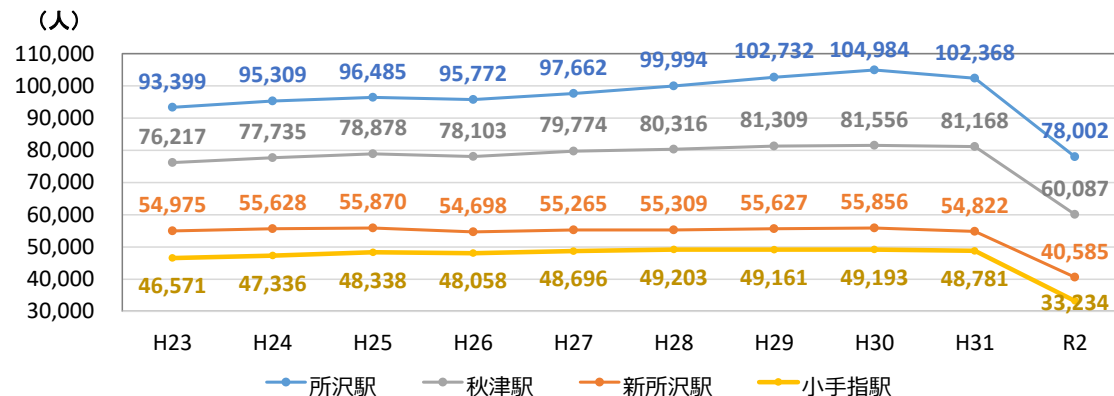
- 鉄道の利用者は近年横ばいであったが、令和2年はコロナの影響で、2割～3割減少した。

⇒ 市民の主要な交通手段である鉄道の利便性を維持・向上する必要がある。

鉄道 乗降客数（各駅1日平均）増減率

鉄道駅	H31	R2	増減率
所沢駅	102,368	78,002	-23.8%
航空公園駅	24,494	18,679	-23.7%
新所沢駅	54,822	40,585	-26.0%
秋津駅	81,168	60,087	-26.0%
西所沢駅	25,720	19,677	-23.5%
小手指駅	48,781	33,234	-31.9%
狭山ヶ丘駅	25,107	18,651	-25.7%
下山口駅	8,012	5,947	-25.8%
西武球場前駅	13,830	4,419	-68.0%
西武園ゆうえんち駅	682	512	-24.9%
東所沢駅	30,176	24,112	-20.1%

資料:西武鉄道HP、JR東日本HP



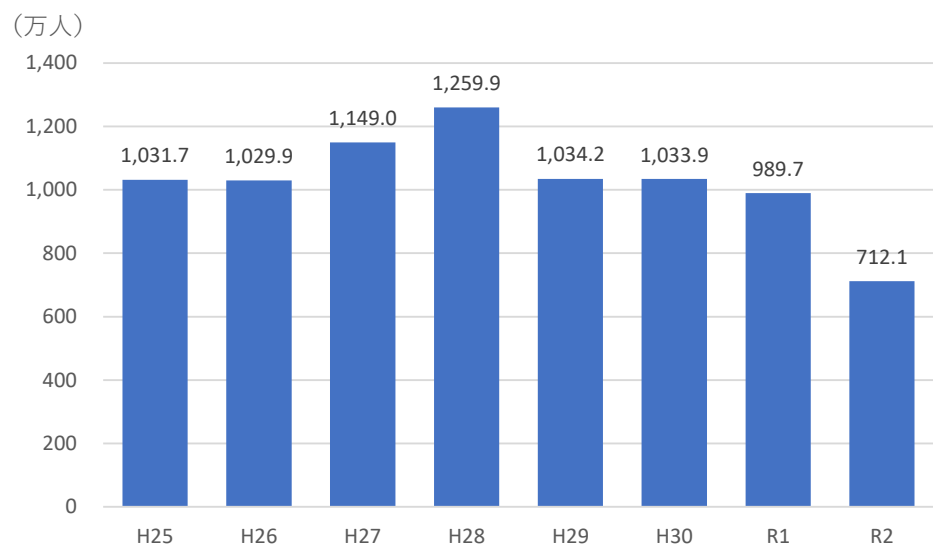
資料:西武鉄道HP、JR東日本HP

鉄道 乗降客数推移（各駅1日平均）

## 4 移動実態

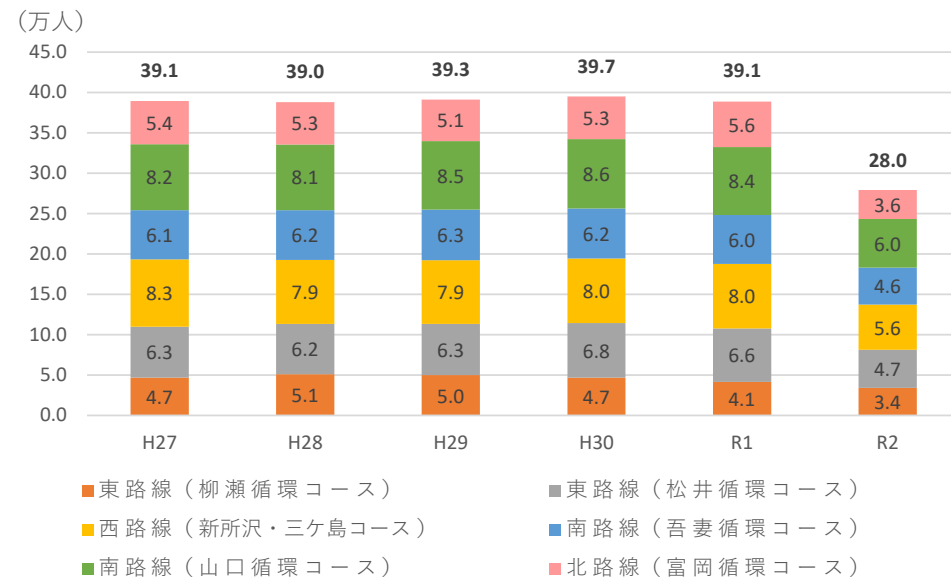
### バス交通：利用者数の推移

- 路線バスは、市内のバス交通の主軸であるが、利用者数は平成28年の約1,260万人から令和元年で約990万人と減少傾向である。令和2年度にはコロナウィルスの影響で、約712万人にまで減少した。
  - ところバスの利用者数は令和元年度まで39万～40万人で推移していたが、令和2年度にはコロナウィルスの影響で、28万人にまで減少した。
- ⇒鉄道との接続性の向上をはじめとした、効率的な運行やダイヤの見直しによる利便性向上と、利用促進施策による利用者数回復が求められる。



資料:令和2年度版所沢市統計書、所沢市

路線バス・年間輸送人員



資料:令和2年度版所沢市統計書、所沢市

ところバス・年間輸送人員



## 5 現状把握から見える課題

### 現状から見える主な課題

- 鉄道とバスの接続性を高めるなど、効率的な運行と利便性向上のための施策を検討する必要がある。
- 高齢者の通院や買い物を支える、生活圏単位の移動手段を確保・拡充する必要がある。
- 来年度から策定予定の立地適正化計画などと連携し、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造に向けた移動環境の整備を図る必要がある。

## 6 今後のスケジュール

